

急性腹症のお話

常陸大宮済生会病院 外科部長 菱川 修司

皆さんこんにちは。今回は「急性腹症」のお話をさせていただきます。

皆さんには急性腹症という言葉はなじみが薄いかもしれませんが、当院外来に「急性腹症」の患者さんが運ばれて来ることはそれほど珍しいことではありません。急性腹症は「急激に発症した腹痛の中で手術などの迅速な対応が求められる疾患群」と定義されており、例えば「お腹が痛くて病院に運ばれ、鼻から管を入れて治った」患者さんなどは「急性腹症」と診断されます。

それでは皆さんに問題です。急性腹症の原因は何だと思われますか？

おそらく皆さんからは「胃潰瘍、胆石症」といった消化器系の病名が出てくるかと思います。もちろん急性腹症の原因の多くがこれら消化器系疾患であることは事実ですが、意外にも「心筋梗塞・心筋炎」といった心血管系や「気胸・肺炎」などの呼吸器系、または「子宮内膜症、卵巣捻転」等の産婦人科系疾患など消化器以外の病気も急性腹症の原因になり得ます。つまり「お腹が痛くても、必ずしも胃や腸の病気とは限らない」のです（お腹が痛いのに心臓の病気が原因だったと聞くとびっくりしますよね）。

急性腹症の患者さんを診察する際、私たち医療スタッフは問診を重要視します。問診とは患者さんま

たは付き添いの方から、大切な医療情報を得る行為をいいます。例えば「いつから痛み出しましたか？」「嘔吐や下痢など他の症状は起きていませんか？」「今どのような薬を飲んでいますか？」「今までに手術を受けたことはありますか？」「最後に食べた食べ物は何ですか？」など色々なことをお伺いいたします。これらはすべて、正確な診断に導く大切な質問ですので、面倒かとは思いますがご返答よろしくお願いいたします。

一般的に高齢者に急性腹症が発症した場合は重症化しやすいとされています。「すでに何らかの基礎疾患（持病）を持っている人が多いこと」や「ご高齢ゆえ症状の訴えが思うようにできず病態が進行してしまっていること」などが理由に挙げられます。

皆さんご自身または周りの方（特にご高齢の方）で「今までに感じたことのないような腹痛」が起こった時は、病状が悪化する前に遠慮なく当院までご連絡ください。当院には優秀な医療スタッフが常駐しておりますのでどうぞ安心して受診してください。



※救急受け入れの人数を月別に表しています。（休日・時間外を含む）

常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況

